

本年度をもって定年を迎えられる先生から一つの節目として
ご挨拶とメッセージをいただきました

定年のご挨拶

昭和大学病院 腫瘍内科 ^{つのだ たくや} 角田 卓也 教授

退任にあたり、これまで一緒に頑張ってくれた医局員はもちろんご尽力いただいた皆様に深く感謝申し上げます。2018年に佐々木康綱教授の後任として、昭和大学医学部内科学講座腫瘍内科部門の2代目教授に赴任しました。「Everything for patients' happy smile!! ~患者さんに納得の医療を届ける~」をビジョンとして邁進してきました。腫瘍内科は「がん薬物療法」を基軸とした診療科で、他診療科との密な連携が重要であり、信頼関係を構築することを第一義と考えました。今後ともご指導宜しくお願い申し上げます。



～ 医師人生を振り返って ～

最近の10年でたとえステージⅣのがんでも薬で治る時代になってきました。まさにその時期に、がん薬物療法を行う腫瘍内科を担当させていただきました。それまで私が専門としてきた「がん免疫療法」によってがんは薬で治る時代になったのです。革命的な変革の時期と言って過言ではありません。学会ではよく「Cancer is not fatal disease, but chronic non-fatal disease like diabetes and hypertension (がんは致命的な病気ではなく、糖尿病や高血圧のような慢性的な非致死性疾患である)」と言われます。どのメカニズムを駆動すればがんを制御できるのかが分かったのです。

今後はこのがんを拒絶する免疫の力を最大限に活用し、全てのがん患者に完治を提供するのが私たちの使命となります。最近、私の患者さんとそのご家族の会として「ネコバスの会」が立ち上がりました。会長はステージⅣのがんでしたが、がん免疫療法で完治された方です。この変革の時代に教授・診療科長として診療・研究・教育に携わって私はとても幸せ者です。今後はこの流れをしっかりと後進に繋げていきたいと考えています。

※記事見出しの色分けについて

病院だよりでは、見出しに色分けをすることで読者の皆さまが読みやすいよう工夫をしております。

黄色見出し：患者さん、患者さんのご家族向け

青色見出し：医療関係者向け

緑色見出し：医師の配属・異動・退職について



定年のご挨拶

昭和大学病院 脳神経外科 みずたに とおる 水谷 徹 教授

1984年に東京大学を卒業、2001年より都立多摩総合医療センター部長となり、2012年4月に昭和大学に迎い入れいただきました。13年間お世話になりこの3月で定年となります。

いかに安全確実な手術を心がけるかをテーマに、走りつづけ、主導してきた手術は脳動脈瘤 2031 件、頸動脈内膜剥離術 1036 件、脳腫瘍 1667 件、総数では 12000 件を超えました。現役の脳神経外科医で本邦最多クラスだと思います。

多くの皆さまに大変お世話になり、本当にありがとうございました。この場を借りて深く御礼申し上げますと同時に昭和大学の益々の発展を祈念してやみません。



～ 医師人生を振り返って ～

私は 20 代のころ脳血管全体が血栓化をともなって巨大に膨らむ脳動脈瘤を目のあたりにして驚愕し、その後も超急性期に次々と再破裂する、今でいう解離性脳動脈瘤を経験しました。このような動脈瘤は当時病態が明らかにされておらず、これらを自分のテーマにしたいと思うようになりました。東大の関連施設に症例発掘に訪問し、また手術で切除あるいは剖検になった方の標本を研究所の病理の小島英明先生に持ち込んで、興味を持っていただき、数ミクロン単位での膨大な連続切片をつくって一緒に検討することを何年も繰り返し、このような本幹動脈瘤群を水谷小島の分類として、また発生機序、病理構造、治癒機転など立て続けに JNS と Neurosurgery という脳神経外科のトップジャーナルに発表しました。これをきっかけに学会や全国各地に講演に招待されるようになり、寺田友昭教授や多くの先生方とも知り合いになり、趣味である釣りのグループまでできてしまいました。こうして解離性脳動脈瘤では世界パイオニアとして認知され海外での講演に招待されました。

一方、手術では、未破裂動脈瘤や良性脳腫瘍では術者の技量がものをいう世界で、極意も同じです。細かい血管、脳や脳神経を傷つけない無血のマイクロサージェリーを目標とし、道具の使い方、術者の姿勢と連動した手の使い方を常に考えて自分も進化しつつ、東大や昭和大で多くの術者を育ててきた今があります。2012 年より現在まで Best Doctor 指定継続中で、手術を私に希望される方々のニーズもまだ多く、4 月からも特任教授として手術を継続させていただきます。

後輩たちと画像を吟味し、作戦を立てて手術を遂行するという過程を大切に、これからもできるだけ後輩や患者さんとかかわっていきたいと思っています。

定年のご挨拶

昭和大学病院 心臓血管外科

あおき あつし
青木 淳 教授



2012年10月に赴任し12年半にわたり心臓血管外科に勤務させて頂きました。赴任前は、昭和大学に縁も所縁もありませんでしたが、尾本准教授、丸田講師をはじめとする優秀なスタッフが残留してくださり、また、循環器内科、麻酔科との連携、手術室・ICU・病棟の看護師・臨床工学士等々のご協力を頂き、順調に心臓血管外科医としての業務を果たすことができました。無事に、定年を迎える事ができましたのも、皆様のおかげと感謝しています。今後の昭和大学病院の発展を祈念しております。

～ 手術技術の習得と心臓手術の低侵襲化へと努力した

心臓血管外科医としての職員人生 ～

私は、学生時代の実習を経て、将来は循環器疾患に携わりたいと思いました。当時の循環器内科は診断学が主体でしたので、心臓血管外科医を志すことにしました。外科医である以上、良い手術ができる様にならなければと考え、現在のUSMLEに相当するアメリカで臨床研修を受ける為の資格を取得し、30歳から3年間、年間に1500件の心臓手術を行う施設で手術研修を行い、この経験が私の外科医としての基礎となりました。帰国後、39歳で心臓血管外科の責任者となり多くの患者さんと向き合うと、高齢・全身状態などから手術リスクが高いあるいは手術不能という方々に遭遇し、体への負担が少ないカテーテル治療に携わるようになりました。昭和大学に赴任後は、血管造影装置を備えたハイブリッド手術室を設置して頂き、経カテーテル大動脈弁移植術をいち早く導入する事ができ、多くの方の治療ができる様になりました。外科医として、手術技術を磨きつつ、カテーテル治療に携わる事ができ、本当に良い時代に心臓血管外科医として働き、「ああ、よい職員人生だった」と満足して定年を迎える事ができました。

定年のご挨拶

昭和大学病院 集中治療科

こたに とおる
小谷 透 教授



2016年に麻酔科学講座に赴任した当時、2つの課題をいただきました。集中治療体制の確立では、集中治療医学講座が新設され、集中治療専門医が専従し24時間365日継続した監視と適時の治療介入が達成されました。遠隔集中治療の立ち上げはアジア初の試みでしたが、4病院108ベッド年間7800余名の患者治療に関わり、保険収載もできました。集中治療部門の運営にご指導ご協力いただいた先生方から心から感謝します。今後も集中治療科をよろしくお願いいたします。

「好きなことを楽しみながら一生懸命やる」が私の医師としての目標でした。医師になって5年目に集中治療専門医として生きる決心をし、以後、35年にわたりICU専従医としての生活を続けてきました。1996年に当時ARDSのOpinion Leaderであった先生に師事し、動物研究や米国のARDS治療施設での留学を通して、より良い治療法にチャレンジすることのやりがいを実感しました。帰国後は、ARDSの治療成績向上のために、新しい人工呼吸モード、腹臥位療法、早期離床や鎮静方法、呼吸ECMO、血液浄化療法など、日本で行われていない治療法にもチャレンジし、開発に携わり、広めていきました。好きなこと、楽しいことはどんなに辛くてもしんどくても続けられます。楽しく続けていれば後輩もついてきてくれます。超人手不足の分野でしたが、たくさんのスタッフと共に働き、重症患者さんの社会復帰を助けることができました。これ以上ない充実した時間を過ごすことができ、とても満足しています。



定年のご挨拶

昭和大学病院 腎移植センター ^{よしただけ}吉武 ^{おさむ}理 准教授



この度、定年を迎えるにあたり、皆様の温かいご支援とご指導に心より感謝申し上げます。

本学において、腎移植医療の発展と後進の育成に尽力できたことは、私にとって大きな喜びでした。幸いにも再任の機会をいただき、今後も教育・研究・診療に貢献できることを光栄に思います。これからも移植医療の発展に努めるとともに、若い世代の育成に尽力してまいります。引き続き、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

～ 「移植医療への情熱と愚直な挑戦」 ～

振り返れば、私の医師人生は、ひたすら移植医療に情熱を注ぎ、ひたむきに挑み続けた道のりでした。群馬大学を卒業し、東京女子医科大学で移植外科を学び、その後、腎移植の普及と成績向上に取り組んできました。本学に入職してからは、200 例を超える腎移植に関わり、移植腎の生着率向上、ハイリスク症例への挑戦、そして低侵襲手術の導入などに尽力しました。中でも、生体腎ドナーの負担を減らすために、後腹膜鏡アプローチをいち早く導入できたことは、今でも誇りに思っています。

また、診療科を超えた協力関係を築いてきたことが、腎移植センターの開設につながりました。これが本学ならではの強みを生かした大きな一歩となり、今後の移植医療の発展に貢献していくことを期待しています。忘れられないのは、高度な血管病変を持つ患者さんへの移植を計画し、無事に成功へ導いた経験です。困難な症例に立ち向かうたび、患者さん一人ひとりの希望に寄り添うことの大切さを、改めて思い知らされます。これからも、移植医療のさらなる発展を目指して挑戦し続けます。

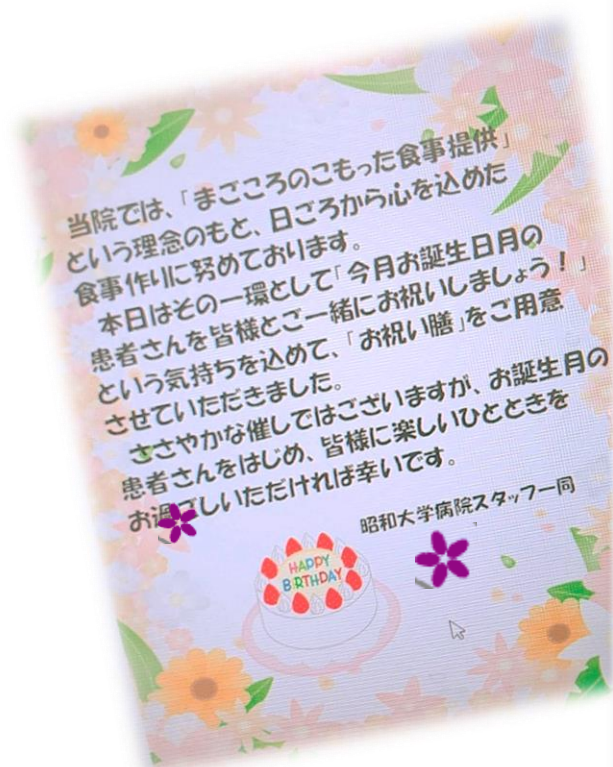
定年のご挨拶

昭和大学病院 栄養科 ^{しまずい}島居 ^{みゆき}美幸 責任者

1990 年 7 月に昭和大学藤が丘病院に入職し、1992 年 9 月より昭和大学附属豊洲病院、2013 年 4 月より昭和大学横浜市北部病院、2020 年 4 月より昭和大学病院に異動し、34 年 9 か月の長きにわたり、多くの方々に大変お世話になりました。藤が丘病院では栄養科の末っ子の立ち位置でしたのに、2 年後、27 歳で豊洲病院栄養科の責任者に任命された時は大変戸惑いましたが、多くの皆様に支えられ、何とか責任者の任務を全うすることができました。改めまして心より感謝申し上げます。今後の栄養科も何卒よろしくお願いいたします。

～ 心を伝える ～

効果のある栄養管理を実践するためには、満足度が高く、喫食率の高い食事を提供することが必要です。そのために栄養科では、「まごころが伝わり、食べよう、食べたい、と思っていただける食事」の提供をめざすことを理念の 1 つに掲げています。その一環として「今月お誕生月の患者さんを皆様一緒にお祝いしましょう!」という気持ちを込めて、「お誕生月のお祝い膳」を毎月 1 回患者さん全員（治療食など一部の食種を除く）に召し上がっていただく行事食を皆様の協力のもと、旧豊洲病院、北部病院、大学病院で始めました。お祝い膳に関するアンケート結果では、食べたいという意欲が湧いた、心が癒された、身体的な苦痛が和らいだ、療養生活の励みや希望につながった、などの回答が多く、その他、心がなごんだ、温かい気持ちになった、など毎月患者さんから多くの反響をお寄せいただき、栄養科と委託会社の皆さんの励みにつながっております。食事を通して「心を伝える」ことができ、患者さんにさまざまな好影響を与えることができることを心に留め、これまでの経験を今後の人生に活かしてまいります。



ご紹介

医学部教授 最終講義のご紹介

定年を迎える先生方の最終講義が開催されます。

本学の教育職員等関係者を聴講対象とさせていただいておりますが、この場を借りてご紹介させていただきます。

お問い合わせ先
昭和大学学事部学務課
TEL：03-3784-8022

医学部教授 最終講義

昭和大学 上條記念館1階 上條ホール

■ 1日目 2025年 3月10日 (月)

18:00 開会の挨拶 久光 正 昭和大学 学長

18:05~18:45
「「至誠一貫」の志を体現するチーム医療の教育・実践・研究を求めて」
木内 祐二 教授
(薬理学講座 医科薬理学部門)

18:55~19:35
「The only way to do great work is to love what you do」
小谷 透 教授
(集中治療医学講座)

19:35 閉会の挨拶 医学部長 小風 暁 教授

■ 2日目 2025年 3月15日 (土)

13:40 開会の挨拶 久光 正 昭和大学 学長

13:45~14:25
「腎生検から学んだこと」
本田 一穂 教授
(解剖学講座 顕微解剖学部門)

14:35~15:15
「教授退任を迎えて、自己採点—教育・診療・研究そしてマネージメント—」
角田 卓也 教授
(内科学講座 腫瘍内科学部門)

15:25~16:05
「心臓血管外科の発展と共に過ごした人生—手術手技の習得と低侵襲化への道—」
青木 淳 教授
(外科学講座 心臓血管外科学部門)

16:15~16:55
「脳神経外科マイクロサージャリーの魅力」
水谷 徹 教授
(脳神経外科学講座)

16:55 閉会の挨拶 医学部長 小風 暁 教授

トピック

当院行事食のご紹介

当院での食事は、医師の指示により病状にあった献立とし、行事食を取り入れた温かい食事を提供しております。3月は「ひな祭り」を予定しております。今後も季節に合わせた行事食をご提供してまいりますので、ご紹介いたします。

※写真は過去のものです。



トピック

正面玄関飾りつけのご紹介



中央棟 1 階正面玄関の飾りつけを行いました。
ご来院の際に、ぜひご覧ください。

【テーマ】



今後も季節に沿って、飾りつけを変えていく予定です

当取り組みは、昭和大学病院・附属東病院において関係職種間での行動（臨床に関する事項）を相互にプラス評価することにより、関係部署との連携を良好にし、**チーム力を高めること**で患者さんにより良い医療を提供することを目的としております。

東病院管理課から医師へのありがとう！

ペインクリニック(麻酔科)医師のみなさんへ

患者数が多い科ですが、患者さん一人一人の痛みに寄り添い各種依頼・問い合わせにも真摯に対応してくださっています。

【患者さんに与えた良い影響】

患者さんより日々感謝の言葉をいただき、また、院内の依頼についても快く協力していただき、患者サービス向上に寄与しています。

眼科 恩田先生

リウマチ・膠原病内科 矢嶋先生へ
病院長不在時、また管理系の業務に積極的に第1代行、第2代行の医師が対応してくださっています。

【患者さんに与えた良い影響】

東病院の運營業務が滞ることなく対応できることにより、少人数でも病院全体が1つとなってチームワークの良さを発揮し患者満足を得られています。



眼科 恩田先生



リウマチ・膠原病内科 矢嶋先生

医師から総合サポートセンターへのありがとう！



ソーシャルワーカー 小川さん

ソーシャルワーカー 小川さんへ

患者さん、ご家族の不安を先頭に立って受け取り必要なサポートを考えてくれます。カンファレンスでもアドバイスをしてもらいありがたいです。地域連携の要でありとても感謝しています。

【患者さんに与えた良い影響】

退院後のサポート体制や地域連携を整えることで患者さんやご家族が安心して退院できていると感じています。外来でも面談を継続していただきご家族も不安が軽減できていると思います。

ソーシャルワーカー 多田さんへ

救命センターに緊急入院となった小児患者さんのご家族と面談をしていただきました。時間をかけてご家族の思いを聞いていただき、退院後の地域連携を調整していただきました。

【患者さんに与えた良い影響】

緊急入院で不安や混乱を感じているご家族の思いを聞いてもらうことでご家族は安心できたと思います。必要な地域関連施設と情報共有をすることで患者さん、ご家族も色々な相談ができて不安を軽減できたと思います。



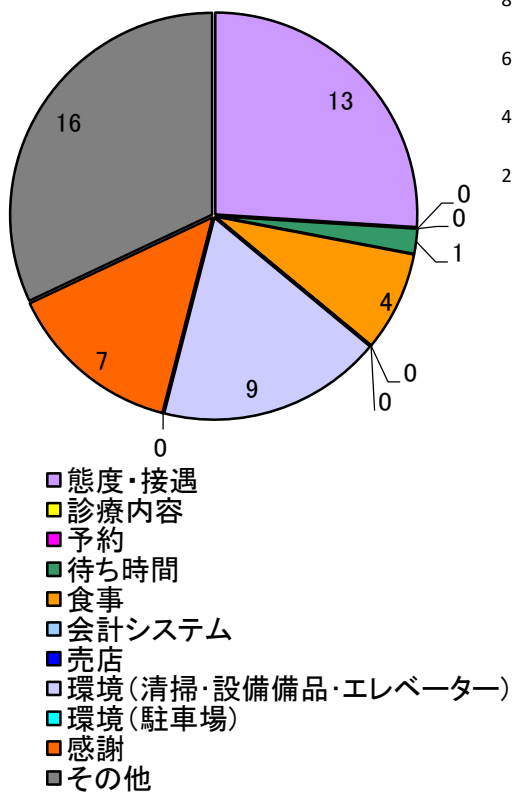
ソーシャルワーカー 多田さん

日頃よりチーム医療にご協力いただきありがとうございます。今後ともよろしく願いいたします。

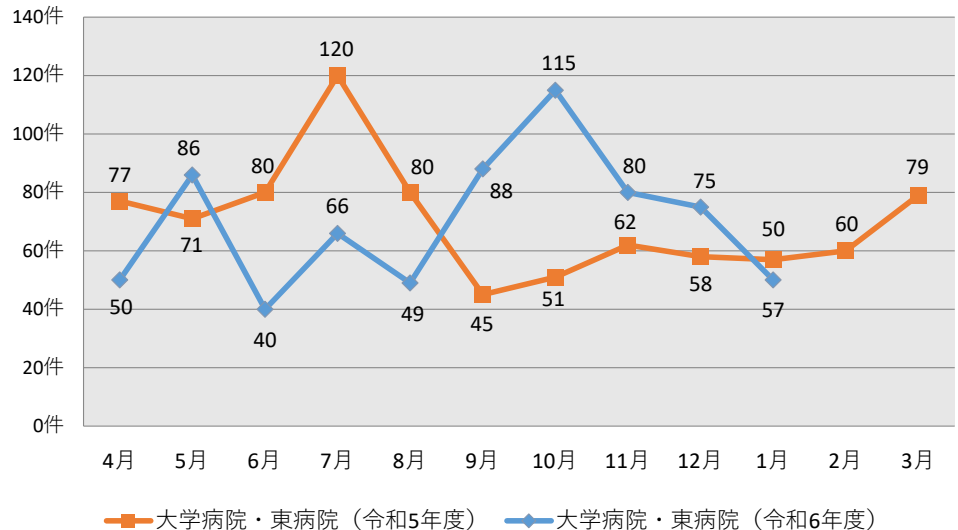
患者さんのご意見・ご要望

ご意見・ご要望	回答	回答 部署
看護師さんたちが実にキビキビと的確に動き、患者に対して親切で丁寧、大変心地よい入院生活をすごさせていただいております。	ご意見ありがとうございます。このような励ましのお言葉にスタッフ一同感謝申し上げます。引き続き、患者さんが安心して療養が行えるよう努力してまいります。	看護部
朝・昼・夜の食事配膳が遅い。10分位ならよいが、30分位待たされる。	このたびは、入院中の食事に関して不快な思いをさせてしまい、申し訳ございませんでした。食事の提供については、ベッド数の都合により、1病棟30分以内に配膳できるよう、努めております。いただいたご意見をもとに、円滑な食事の配膳が出来るよう改善してまいります。貴重なご意見ありがとうございました。	栄養科

令和7年3月号掲載分
ご意見・ご要望の内訳
昭和大学病院・東病院総件数
75件



令和5年度・令和6年度ご意見・ご要望の推移



お知らせ

医師の配属・異動・退職について

新規配属

令和7年3月1日付

●小児心臓血管外科 鈴木 浩之

退職

令和7年2月20日付

●呼吸器・アレルギー内科 岡崎 朋子

令和7年2月28日付

●整形外科 諸星 明湖

●皮膚科 吉田 春奈

●小児心臓血管外科 清水 春菜

異動

学外から 令和7年3月26日付

●リウマチ・膠原病内科 猪狩 雄蔵

学外へ 令和7年3月1日付

●腫瘍内科 平澤 優弥

附属施設から 令和7年3月1日

●循環器内科 関本 輝雄

●小児外科 山下 愛理

●リウマチ・膠原病内科 杉山 正弥

附属施設へ 令和7年3月1日

●小児科 吉野 日奈子

●小児循環器内科 石井 瑤子

編集後記

臨床検査室 わたなべ さとし 渡邊 聡

日ごとに春らしい陽気となり、梅の香りが爽やかに感じられる季節となりました。

3月といえば思い浮かべる和菓子として、ぼた餅があります。春はぼた餅、夏は夜船、秋はおはぎ、冬は北窓と、季節によって名前が変わる不思議な和菓子です。

春と秋はその時期に咲く「牡丹」と「萩」から名付けられ、夏と冬は音を出さずにつくおはぎの特徴「つき知らず」から名付けられたそうです。

まだ肌寒い日が続きますが、体調を崩したりなさいませんようにお気お付け下さい。



昭和大学病院

検索



昭和大学病院附属東病院

検索

発行 昭和大学病院、昭和大学病院附属東病院

発行責任者 昭和大学病院長 相良 博典

編集責任者 広報委員長 山岸 昌一

〒142-8666 東京都品川区旗の台 1-5-8

TEL: 03-3784-8000 (代表)

昭和大学病院・附属東病院の理念

- ・患者本位の医療
- ・高度医療の推進
- ・医療人の育成

昭和大学病院・附属東病院の基本方針

- ・患者さんと共にチーム医療を実践する。
- ・特定機能病院及び地域の基幹病院として高度急性期医療を推進し、質の高い医療を提供する。
- ・教育病院としての機能を充実し、質の高い医療人の育成を行う。
- ・人間の尊厳及び人権を守りつつ、高度な臨床研究を実践する。

※記事見出しの色分けについて

病院だよりでは、見出しに色分けをすることで読者の皆さまが読みやすいよう工夫をしております。

黄色見出し：患者さん、患者さんのご家族向け

青色見出し：医療関係者向け

緑色見出し：医師の配属・異動・退職について

病院広報委員会委員：大江 克憲、岡崎 靖子、佐々木 美代子、鷺見 賢司、富田 英、並木 美加子、
蜂須賀 綾香、林 直輝、本寺 哲一、村上 秀友、山岸 昌一、山下 剛史、吉田 仁、渡邊 聡
(50音順)